

日 時	令和8年2月12日（木）18：00-20：00
会 場	ZOOMによるWEB開催
議 題	教育、医療、福祉の連携：地域で支える家族支援 -各機関より現状報告と課題について-
出席者	<p>20名 うち県担当者1名、事務局4名</p> <p><b>【出席者所属（職種）】</b>（敬称略・50音順）</p> <p>飯野 楓 獨協医科大学埼玉医療センター 総合患者支援センターMSW  井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師  井上 弘江 幸手市立長倉小学校校長  大谷 良子 発達協会王子クリニック医師  栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭  作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師  櫻井 秀子 川口市立芝小学校校長  鈴木 郁子 光の家療育センター 医師  須永 崇寛 越谷市教育センター指導主事  中野沙弥香 幸手保健所技師  服部 純一 星美学園短期大学幼児保育学科教授  東 美菜子 越谷児童相談所  藤田 泰幸 越谷児童相談所医師  星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師  南場 由美 発達障害総合支援センター主任</p> <p><b>【県担当者】</b></p> <p>黒瀬 友紀 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>北高野 美由規、木村 収実、齋藤 恵美子、星島 由香</p>
概 要	<p><b>【県担当者より挨拶】</b></p> <p>医療・行政・教育のネットワーク構築により、支援が必要な子どもと保護者を早期に適切な機関につなぐことが目的であるとし、今年度テーマは「教育・医療・福祉の連携」「地域で支える家族支援」とした。</p> <p><b>【50音順に報告】</b></p> <p>飯野  ●児童相談所との連携の増加について  井上建  ●ゲーム行動症について  井上弘江  ●多(他)機関連携による子どもの支援に共通理解が大切である  大谷</p>

- 多職種による支援体制の構築と医療と教育の体制強化について  
栗原
- 校内教育支援センターとメンタルヘルスリテラシー教育の取り組み  
作田
- 不登校児童生徒の増加の背景とメンタル面の早期把握と対処の必要性  
櫻井
- 校内委員会機能の再確認と特別支援教育の人材育成、安定した支援体制  
鈴木
- 発達障害支援の基本方針と専門職育成に取り組んできた成果について  
須永
- 教育相談の現状と不登校支援の取り組みについて  
中野
- 2つの「子どもの心の健康相談づくり事業」について  
服部
- 医療、福祉、小学校、短大(教育相談)が連携した事例報告  
東
- 埼玉県の子童相談所の設置状況と、一時保護所と教育について  
藤田
- 家族療法とオープンダイアログについて、そのポイントと効果  
星野
- ステップファミリーの家族の構成別の支援ポイントについて  
南場
- 埼玉県発達障害総合センターの概要と相談状況について

【井上建より終わりの挨拶】

今回は共通の検討事項である「特別支援教育」にテーマを絞って、行政、医療、福祉、教育それぞれの立場で掘り下げて話ができればいいのではないか。